

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
令和2年度研究開発実施報告書

「科学技術イノベーション政策のための科学」  
研究開発プログラム  
「医学・医療のためのICTを用いた  
エビデンス創出コモンズの形成と政策への応用」

加藤 和人  
(大阪大学 教授)

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2 - 1. 研究開発目標 .....	2
2 - 2. 実施内容・結果 .....	3
2 - 3. 会議等の活動 .....	8
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	11
4. 研究開発実施体制 .....	11
5. 研究開発実施者 .....	12
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	13
6 - 1. シンポジウム等 .....	13
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	13
6 - 3. 論文発表 .....	13
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	14
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等 .....	14
6 - 6. 知財出願 .....	14

## 1. 研究開発プロジェクト名

医学・医療のためのICTを用いたエビデンス創出コモンズの形成と政策への応用

## 2. 研究開発実施の具体的内容

### 2 - 1. 研究開発目標

本研究では、以下の3つの達成目標を掲げて研究を進めていく。

1. 患者・医学研究者・政策関係者などのステークホルダーが政策形成に有用な指摘や提案を継続的に議論・検討する場、すなわち「エビデンス創出コモンズ」を構築する。

医療政策・医学研究政策に対し、効果的なエビデンスを創出するための熟議の場を作ることが目標であり、大きく分けると2段階で行う。第一段階では、RUDY JAPAN という患者参加型の医学研究を介して直接・間接に繋がった患者と医学研究者とのネットワークを利用し、患者と研究者との熟議およびエビデンス創出を行う場（コモンズ）を構築する。また、少数の政策関係者にも参加してもらい、政策への反映を意識したエビデンスの創出に向けた検討を共に行う。次に第二段階として、患者、研究者、政策関係者の3者の参加を得て、熟議とエビデンス創出を行うための場（コモンズ）を構築する。

2. エビデンス創出コモンズで得られた課題や提案について、多様な視点から評価し、政策への実現可能性を高めたエビデンスを創出すること、およびそのための効果的な手法を開発する。

本研究においては、政策形成に生かせるエビデンスは、「多様な患者の立場や意見をできるだけ客観的に反映した政策形成のための課題の指摘や提案」と定義している。より具体的には、疾患横断的な見方を反映したもの、多様な関与者の視点を総合的に考慮したもの、患者の身体的な面と心理的な面の両方に配慮したもの、といった特徴を持つエビデンスを創出することを目指している。さらには、政策関係者がコモンズに参加することで、政策として実行可能性を高めたエビデンスとすることを目指す。その過程で得られた手法についても研究成果として公表する。

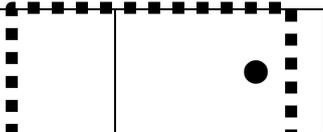
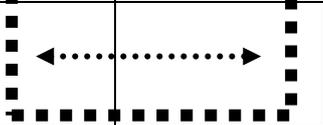
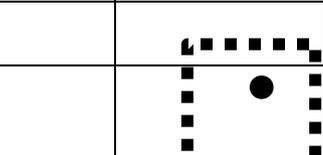
3. 急速に社会に広まりつつあるICT（情報通信技術）を具体的にどのように利用すれば、関与者同士の共創を実現できるかについて検証する。

これまで、患者が集まり意見交換を行う会合などは、東京や大阪などの大都市で開催することが多かったが、ICTを用いれば患者や患者関係者が遠隔地にいても参画しやすくなると期待される。スマートフォンの普及は驚くべき広がりを見せており、PCに加え、スマートフォンやタブレット端末を用いて、「エビデンス構築コモンズ」の構築に参加し、エビデンス創出のための活動を効果的に行うためには、どのようなやり方がよいのかを検討する。

## 2 - 2. 実施内容・結果

### (1) スケジュール

実施項目	2018年度 (6ヵ月)	2019年度 (12ヵ月)	2020年度 (12ヵ月)	2021年度 (12ヵ月)
<b>【第1フェーズ】</b>				
1-1. エビデンス創出 コモンズの構築				
1-2. ステークホルダー へのヒアリング				
1-3. 各ステークホル ダーの問題意識および 意見の共有				
1-4. 政策形成へのエ ビデンス創出 (1) (H31)				
<b>【第2フェーズ】</b>				
2-1. オンラインワー クショップ (1)				
2-2. フォーラムおよ びエビデンス評価 (1)				
2-3. 国際シンポジウ ム (2020年9月)				
2-4. エビデンス創出 コモンズの運営と発展 (1)				
<b>【第3フェーズ】</b>				
3-1. オンラインワー クショップ (2)				
3-2. 政策形成へのエ ビデンス創出 (2)				
3-3. フォーラムおよ びエビデンスの評価 (2) ※政策への反映方法の 検討含む				

3-4. 国際誌への論文投稿（※元の計画では2-4）				
3-5. エビデンス創出コモンズの運営と発展（2）				
<b>【第4フェーズ】</b>				
4-1. 成果報告シンポジウム				
4-2. 報告書作成				

## (2) 各実施内容

### 今年度の到達点①・・・

**【第2フェーズ】** コモンズでの共創・信頼関係の深化とエビデンスの評価、後半

#### 2-1. オンラインワークショップ（1）

2020年5月にこれまでの研究の進め方と成果についての振り返りと今後の進め方についての意見交換ワークショップをオンラインで開催した。

#### 2-3. 国際シンポジウム

2020年10月に「患者参画のいま、そして未来 ー共に医療・医学の政策を考えるー」と題したオンライン国際シンポジウムを開催した。

(国際誌への論文投稿)

\*元々第2フェーズの最後に予定していた「2-4. 国際誌への論文投稿」は、研究の進捗を考慮するとさらに時間が必要と判断したため、第3フェーズに移すことにした。

#### 2-4. エビデンス創出コモンズの運営と発展（1）

本研究プロジェクトへの参加者の増加に繋がることを期待して、その人的ネットワークの基盤となるRUDY JAPAN（患者と研究者の協働によるインターネットを用いた希少疾患を対象とするQOL調査の研究プロジェクト）の登録促進のためのシステム構築を行った。

### 今年度の到達点②・・・

**【第3フェーズ】**（政策担当者を含めたエビデンスの創出と検討、前半）

#### 3-1. オンラインワークショップ（2）

2020年9月～2021年1月に計6回のオンラインワークショップを開催し、「難病領域において優先して取り組むべき研究テーマ」についての議論を深め、一部の研究テーマについてはその具体的なリサーチクエスチョンを検討した。

#### 3-2. 政策形成へのエビデンス創出（2）

(※オンラインワークショップの結果を受けてエビデンス創出を行う部分は令和

3年度前半に実施予定である。)

■データベース検索（プロジェクト間連携）

2019年度に引き続き、社会技術研究開発センター（RISTEX）科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム 平成29年採択課題「先端医療のレギュレーションのためのメタシステムアプローチ」（加納PJ）とのプロジェクト間連携を行なった。2020年度は、2019年度に実施した加納PJとのプロジェクト間連携によって開発した希少疾を対象とするグラントのキーワードによる相対関係の分析方法を用いて、実際に調査を実施した。

(3) 成果

今年度の到達点①・・

【第2フェーズ】コモンズでの共創・信頼関係の深化とエビデンスの評価、後半

2-1. オンラインワークショップ（1）

オンラインワークショップでは、エビデンス創出コモンズに関与する患者・患者家族・患者グループ関係者、研究者、政策関係者が参加して、これまでの研究の進め方と成果についての当プロジェクトの強みと課題、及び今後の研究の方向性について意見交換を行なった。意見交換はオンライン付箋ツールApisnoteを用いて行なった。これまでの研究の進め方と成果についての意見交換では、青の付箋に本プロジェクトの強み（良かった点）、黄の付箋に課題、緑の付箋にその他質問などを記入した。各参加者が複数枚の付箋を提出し、全体で整理した。また、今後の研究の方向性についての意見交換赤の付箋に提案を記入し、各提案に対して青の付箋に賛意、黄の付箋に留意点を記入した。

本オンラインワークショップによって、研究のプロセスを研究者側だけで検討するのではなく、患者、政策関係者といった各ステークホルダーがそのプロセスに関与し改善に繋げることができた。この結果に基づいて3-1.ワークショップでは引き続き他の「優先すべき研究テーマを判断するための基準」をこれまでに同定された「希少難病患者が直面するさまざまな困難＝研究テーマ」に当てはめることで、優先すべき研究テーマを考え、その上で優先すべき研究テーマについて、具体的な研究内容を検討することにした。

2-3. 国際シンポジウム

オンライン国際シンポジウムでは、当研究プロジェクトからこれまでの研究成果について発表するとともに、患者参画に携わる国内外の研究者がそれぞれの取り組みを紹介した。また、後半のパネルディスカッションでは、講演者に加えて当研究開発プロジェクトに参画する患者・研究者が登壇し、オーディエンスとともに活発な意見交換を行なった。

「医学・医療のためのICTを用いたエビデンス創出コモンズの形成と政策への応用」2020年度国際シンポジウム

# 患者参画のいま、そして未来

## — 共に医療・医学の政策を考える —

Patient Involvement in Policy Making – Current Issues and Future Directions

いま、政策に患者の視点を反映させることの重要性が認識されはじめています。こうした状況を受け、私たちはその有効な手法や期待される成果を、実践を通して研究しています。今回は、国内外から患者参画に携わるの方々をお招きし、現在行われている取り組みをご紹介します。また、パネルディスカッションでは、患者を交えた意見交換を行います。今後の患者参画に期待される内容や在り方について、みなさまと考える場になればと存じます。是非、お気軽にご参加ください。

2020年10月16日 金 16:00-19:00

**開催形式** オンラインシンポジウム

日英同時通訳つき(専用アプリケーションを使用)  
詳細は参加登録された方にお知らせします。

- 事前に参加登録を頂いた方に当日参加用URLをお知らせします。
- ブラウザから誰でも参加頂けるシステム(ユーザ登録不要)を使用します。
- パソコン・スマホで全国どこからでもご参加いただけます。

講演者・パネリスト(予定)

ご挨拶 山縣 然太郎 (山梨大学大学院総合研究部医学域)

Zentaro Yamagata

プロジェクトの紹介 加藤 和人・古結 敦士 (大阪大学大学院医学系研究科)

Kazuto Kato Atsushi Kogetsu

講演① Kassim Javaid (University of Oxford)

Kassim Javaid

講演② Jane Kaye (University of Oxford)

Jane Kaye

講演③ 山本ベバリー・アン (大阪大学大学院人間科学研究科)

Beverly Anne Yamamoto

ビデオメッセージ 武藤 香織 (東京大学医科学研究所)

Kaori Muto

パネリスト 秀 道広 (広島大学副学長・大学院医系科学研究科) ほか

Michihiro Hida

パネルディスカッションでは、これまで私たちのプロジェクトに参加された方のうち、患者・研究者が共に登壇し、意見交換を行います。

お申込み

対象 ご関心をお持ちの方であれば、どなたでもご参加いただけます。

定員 200名(参加費無料)

参加登録 下記ページのフォームから参加登録をお願いします。

※ 事前参加登録: 10月12日(月)12:00まで

<https://www2.med.osaka-u.ac.jp/eth/seminar/20201016/>



参加登録はこちら

主催 科学技術イノベーション政策のための科学 - 平成30年度採択研究開発プロジェクト  
「医学・医療のためのICTを用いたエビデンス創出コモンズの形成と政策への応用」(代表・加藤和人)

問合せ 大阪大学大学院医学系研究科・医の倫理と公共政策学 email:ristex@eth.med.osaka-u.ac.jp

図1 国際シンポジウムのフライヤー

#### 2-4. エビデンス創出コモンズの運営と発展（1）

RUDY JAPANの登録者のうち当プロジェクトに関心を示された方や既にプロジェクトに参加している人から紹介された方が新たに参加者として加わった。新たなメンバーが加わることでさらに多様な視点が生まれるとともに、コミュニケーションが活性化されている。また、オンラインワークショップやその後の交流会（オンラインで開催）等も、信頼関係の構築ならびにコモンズの発展に寄与していると考えられる。

### 今年度の到達点②・・・

#### 【第3フェーズ】（政策担当者を含めたエビデンスの創出と検討、前半）

##### 3-1. オンラインワークショップ（2）

2020年9月～2021年1月に計6回のオンラインワークショップを開催した。第1回、第3回、第4回（2回に分けて実施）のオンラインワークショップでは、昨年度に引き続いて「優先すべき研究テーマを判断するための基準」が、初年度のワークショップによって同定された「希少難病患者が抱える困難＝研究テーマ」を満たすかどうかを考えることで、「難病領域において優先して取り組むべき研究テーマ」についての議論を深めた。第1回と第3回では昨年度に実施した「現在行われている研究をさらに良くするために特に重要な判断基準」とは異なる個別観点を反映する2つの判断基準を適用し、第4回のオンラインワークショップでは、適用する判断基準を選択する際に実施した投票で、患者側と研究者・政策関係者側で投票数に差のあった判断基準を適用した。これらの結果、「優先すべき研究テーマを判断するための基準」として有効であったものは、選択された8つの判断基準のうち5つであった。それ以外の3つについては、「全ての研究テーマが同程度に基準を満たした」「人によって基準を満たすかどうかの判断にばらつきがあるため合意形成には至らなかった」等の理由で有効な判断基準とはならなかった。

第2回のオンラインワークショップ（2回に分けて実施）では、これまでの検討の結果により「優先すべき研究テーマ」とされたものの中から2つを選択し、その研究テーマにおける具体的な研究内容を考えるためのワークショップを実施した。本ワークショップはApisnoteを用いて行い、各参加者がその研究テーマに関連したリサーチクエスチョンを付箋に記入して提案した。患者・患者関係者は黄の付箋、研究者は緑の付箋、政策関係者は青の付箋にリサーチクエスチョンを記入した。このワークショップを通して、プロジェクトの参加者が「希少難病を抱える患者が直面する困難に対して研究として取り組む際に優先すべき研究テーマを検討する」というプロジェクトの狙いをより具体的に理解することに繋がった。また、それぞれの立場で異なる視点を持ったリサーチクエスチョンが提案されたことで、互いに学び合う場にもなった。

##### 3-2. 政策形成へのエビデンス創出（2）

###### ■データベース検索（プロジェクト間連携）

対象疾患を333の指定難病として、グラントの疾患名等によって検索を行い、グラントのID、タイトル、代表者、実施期間、金額、キーワード、要旨からなるリ

ストを作成した。次に、当プロジェクトで分類された「希少疾患患者が直面する困難＝研究テーマ」に関係するキーワードを抽出するため、29,839件のグラントリストのタイトル・要旨から抽出された専門用語のうち、「マッピングに適さない用語」（たとえば、「分子」「遺伝子」などの実験科学の基本用語や「解析」「分析」といった広く研究行為を指す基本的な言葉など）を除いた用語集のサマリー版約12000語、詳細版約52000語を作成し、各研究テーマに該当するキーワードを検討した。今後はこのキーワードを用いてグラントのマッピングを行う。

#### (4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

令和2年度は、全体計画のうち第2フェーズの後半部分と第3フェーズの前半部分という予定していた計画を概ね実施することができた。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、シンポジウムやワークショップは全てオンラインでの開催となったが、これまで培ってきたノウハウを活かして、プロジェクトの進行には大きな影響はなかった。特にオンラインワークショップでは、Apisnoteやグループワークなど、目的と参加者数に応じて柔軟にツールを使うこともできている。

一方で、2-4.で予定していた国際誌への論文投稿については、論文投稿のための下準備にかなりの時間を費やすこととなったため計画の変更を余儀なくされたが、令和3年度は本格的に取り組む予定である。

また、本プロジェクトの成果の政策実装という点では、十分とは言えない状況である。次年度はプロジェクトの具体的な成果を踏まえて、政策実装のためのコミュニケーションを本格化させる必要がある。そのために、プロジェクトに新たな政策関係者を迎え、政策実装のためのコミュニケーションとして、いくつかの具体的なアプローチを検討しているところである。

### 2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2020年4月10日	内部ミーティング	オンライン	オンライン意見交換会の準備
2020年4月20日	PJ間連携ミーティング	オンライン	今後の研究の進め方に関する検討
2020年5月1日	PJ間連携ミーティング	オンライン	今後の研究の進め方に関する検討
2020年5月11日	内部ミーティング	オンライン	オンライン意見交換会の準備
2020年5月30日	オンライン意見交換会	オンライン	これまでの研究の進め方と成果、及び今後の研究の方向性について参加者との意見交換
2020年6月16日	内部ミーティング	オンライン	オンライン意見交換会の結果のレビュー、及び今後の計画に関する検討
2020年6月23日	内部ミーティング	オンライン	プロジェクトのWebページ、国際シ

			ンポジウム、交流会に関する検討
2020年7月7日	内部ミーティング	オンライン	オンラインアンケート実施の準備、プロジェクトのWebページ、国際シンポジウム、及びオンラインワークショップに関する検討
2020年7月20日	内部ミーティング	オンライン	プロジェクトのWebページ、国際シンポジウム、オンラインワークショップ、学会発表、論文執筆に関する検討
2020年7月27日	内部ミーティング	オンライン	国際シンポジウム、学会発表、論文執筆に関する検討
2020年8月17日	内部ミーティング	オンライン	国際シンポジウム、オンラインワークショップ、論文執筆に関する検討
2020年9月1日	内部ミーティング	オンライン	国際シンポジウム、オンラインワークショップ、論文執筆に関する検討
2020年9月14日	2020年度第1回オンラインワークショップ	オンライン	「優先すべき研究テーマを判断するための基準」の適用に関するワークショップ
2020年9月15日	内部ミーティング	オンライン	プロジェクトのWebページ、国際シンポジウムに関する検討
2020年9月25日	内部ミーティング	オンライン	文献調査に関する検討
2020年10月9日	内部ミーティング	オンライン	プロジェクトのWebページ、国際シンポジウムに関する検討
2020年10月30日	内部ミーティング	オンライン	国際シンポジウムの振り返り、オンラインワークショップに関する検討
2020年11月12日	PJ間連携ミーティング	オンライン	今後の研究の進め方についての検討
2020年11月17日	内部ミーティング	オンライン	国際シンポジウムのアンケート結果の共有、オンラインワークショップに関する検討
2020年12月1日	内部ミーティング	オンライン	学会発表のための打ち合わせ
2020年12月3日	内部ミーティング	オンライン	文献調査に関する検討
2020年12月4日	内部ミーティング	オンライン	学会発表のための打ち合わせ
2020年12月21日	内部ミーティング	オンライン	オンラインワークショップ、文献調査、行政との連携に関する検討
2021年1月 5日	研究分担者ミーティング (PJ会議)	オンライン	今後の研究の進め方、及びオンラインワークショップの計画に関する検討

2021年1月7日、9日	2020年度第2回オンラインワークショップ	オンライン	これまでのワークショップの結果見えてきた「優先して取り組むべき研究テーマ」の中から1つの研究テーマを選び、「具体的にはどういった研究が考えられるか」についてアイデアを出し合うためのワークショップ
2021年1月15日	内部ミーティング	オンライン	オンラインワークショップの準備
2021年1月18日	2020年度第3回オンラインワークショップ	オンライン	「優先すべき研究テーマを判断するための基準」の適用に関するワークショップ
2021年1月19日、21日	2020年度第4回オンラインワークショップ	オンライン	「優先すべき研究テーマを判断するための基準」の適用に関するワークショップ
2021年1月27日	内部ミーティング	オンライン	次年度の計画に関する検討
2021年2月3日	内部ミーティング	オンライン	次年度の計画に関する検討、行政との連携に関する検討
2021年3月5日	内部ミーティング	オンライン	次年度の計画に関する検討、行政との連携に関する検討
2021年3月9日	総括面談	オンライン	これまでの研究成果及び次年度の計画に関する意見交換
2021年3月11日	PJ間連携ミーティング	オンライン	状況共有及び今後の研究の進め方についての検討
2021年3月12日	研究分担者ミーティング (PJ会議)	オンライン	今後の研究の進め方に関する検討

### 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

これまで、学会発表やワークショップ、国際シンポジウムという形で成果を発表してきたが、政策実装という点では十分とは言えない。現在、政策実装のためのコミュニケーションとして、いくつかの具体的なアプローチを検討しているところである。

### 4. 研究開発実施体制

本研究は以下で構成される1つのグループによって実施される。（グループリーダー：加藤和人）

大阪大学大学院医学系研究科  
大阪大学大学院人間科学研究科  
広島大学大学院医歯薬保健学研究科

#### 2-1. オンラインワークショップ（1）

オンライン会議への参加者を募る部分は、加藤・古結を中心として行う。各研究開発実施者はオンラインワークショップに参加して意見交換を行う。

#### 2-3. 国際シンポジウム（2020年9月）

参加者の募集と企画は、加藤・古結を中心として行う。各研究開発実施者は対面式フォーラムに参加して意見交換を行う。

#### （2-4. 国際誌への論文投稿）

\*元々第2フェーズの最後に予定していた「2-4. 国際誌への論文投稿」は、研究の進捗と論文執筆のための準備のため、第3フェーズに移すことにした。

#### 3-1. オンラインワークショップ（2）

オンライン会議への参加者を募る部分は、加藤・古結を中心として行う。各研究開発実施者はオンラインワークショップに参加して意見交換を行う。

#### 3-2. 政策形成へのエビデンス創出（2）

研究開発実施者全員で検討を行い、エビデンスとしてまとめる。

## 5. 研究開発実施者

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
加藤 和人	カトウ カズト	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
小門 穂	コカド ミノリ	大阪大学	大学院医学系研究科	助教
山崎 千里	ヤマサキ チサト	大阪大学	大学院医学系研究科	特任研究員
古結 敦士	コゲツ アツシ	大阪大学	大学院医学系研究科	助教
濱川 菜桜	ハマカワ ナオ	大阪大学	大学院医学系研究科	D3
磯野 萌子	イソノ モエコ	大阪大学	大学院医学系研究科	D2
相京 辰樹	アイキョウ タツキ	大阪大学	大学院医学系研究科	D2
山本 ベバリ ーアン	ヤマモト ベバリ ーアン	大阪大学	大学院人間科学研究 科	教授
高橋 正紀	タカハシ マサノリ	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
久保田 智哉	クボタ トモヤ	大阪大学	大学院医学系研究科	准教授
秀 道広	ヒデ ミチヒロ	広島大学	大学院医歯薬保健学 研究科	教授
岩本 和真	イワモト カズマ	広島大学	大学院医歯薬保健学 研究科	助教
田中 暁生	タナカ アキオ	広島大学	医系科学研究科	准教授
松村 泰志	マツムラ ヤスシ	大阪大学	大学院医学系研究科	教授
武田 理宏	タケダ トシヒロ	大阪大学	大学院医学系研究科	准教授
真鍋 史朗	マナベ シロウ	大阪大学	大学院医学系研究科	特任助教
Amelia Katirai	Amelia Katirai	大阪大学	大学院人間科学研究 科	D3

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2020年10月16日	「医学・医療のためのICTを用いたエビデンス創出コモンズの形成と政策への応用」2020年度国際シンポジウム 患者参画のいま、そして未来 — 共に医療・医学の政策を考える —	科学技術イノベーション政策のための科学・平成30年度採択研究開発プロジェクト「医学・医療のためのICTを用いたエビデンス創出コモンズの形成と政策への応用」(代表・加藤和人)	オンライン	152名	国内外から患者参画に携わる方を招いて、現在行われている取り組みをご紹介しますとともに、パネルディスカッションでは、患者を交えた意見交換を行う。

### 6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・ JST-RISTEX 科学技術イノベーション政策のため科学 研究開発プログラム「医学・医療のためのICTを用いたエビデンス創出コモンズの形成と政策への応用」— コモンズプロジェクト— <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/eth/research-project/> (2020年10月30日公開)

(3) 学会 (6-4.参照) 以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ 加藤和人、古結敦士. 医学研究の倫理・政策と患者参画が果たす役割. 医療政策研究会. 2021年2月24日. オンライン

### 6-3. 論文発表

(1) 査読付き (1件)

- ・ Nao Hamakawa, Atsushi Kogetsu, Moeko Isono, Chisato Yamasaki, Shirou Manabe, Toshihiro Takeda, Kazumasa Iwamoto, Tomoya Kubota, Joe Barrett, Nathanael Gray, Alison Turner, Harriet Teare, Yukie Imamura, Beverley Anne Yamamoto, Jane Kaye, Michihiro Hide, Masanori P. Takahashi, Yasushi Matsumura, Muhammad Kassim Javaid & Kazuto Kato. The practice of active patient involvement in rare disease research using

ICT: experiences and lessons from the RUDY JAPAN project. *Research Involvement and Engagement*. 2021:7,9.

(2) 査読なし (0件)

#### 6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議0件、国際会議0件)

(2) 口頭発表 (国内会議1件、国際会議0件)

- ・ 第32回日本生命倫理学会年次大会 公募ワークショップ「日本における患者・市民参画(PPI)を考える — 3つの実践の現場から —」オーガナイザー：加藤和人 (大阪大学大学院医学系研究科)、古結敦士 (大阪大学大学院医学系研究科)、報告者：磯野萌子 (大阪大学大学院医学系研究科)、古結敦士 (大阪大学大学院医学系研究科)、山本ベバリーアン (大阪大学大学院人間科学研究科)  
(ワークショップ内でプロジェクトについて発表) 2020年12月6日 オンライン開催

(3) ポスター発表 (国内会議0件、国際会議0件)

#### 6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (0件)

(2) 受賞 (0件)

(3) その他 (0件)

#### 6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (0件)

(2) 海外出願 (0件)